

# 平成27年度 全国学力・学習状況調査及び 佐賀県学習状況調査結果

## 調査結果の公表にあたって

本校では平成27年度も 全国学力・学習状況調査、佐賀県学習状況調査の結果について公表することになりました。

本校は、教育目標「ふるさと”若木”を愛するたくましい若木っ子の育成」の達成に向けて、チーム「若木」を合い言葉に、職員一同力を合わせて取り組んでいるところです。学力向上についても、基礎・基本の定着、学習習慣の定着、わかる授業の充実を目指して取り組んでいます。今回公表した学力調査結果はその一部となるものです。また、発達途上の子どもたちの現時点での一面であり、今後の取組の資料となるものです。この結果を受け、さらに指導方法の新たな検討、校内研修の活性化等に取り組めます。

児童・生徒の学力の向上には学校と家庭や地域との連携が必要です。今回学習状況と意識調査（家庭や地域での学習や生活状況）を合わせて公表することで連携体制をより強くしていきたいと考えております。

公表は、6年生は全国学習状況調査、5年生は佐賀県学習状況調査の結果です。

全国学力・学習状況調査は国語、算数(数学)共にA問題、B問題という2種類のテストで成り立っています。おおむねA問題は基本的な問題、B問題は思考力を要するような問題です。さらに今年度からは、新たに6年生の理科のテストも加わっております。

結果を受けての本校の分析と改善に向けた具体的な取組を掲載しておりますので、ご覧ください。

平成27年9月7日

**武雄市立若木小学校**

1 児童の実態

(1)学習状況調査結果の推移

|               | 国語             |                |                | 算数             |                |                | 理科             |
|---------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|
|               | 5年時            | 6年時            |                | 5年時            | 6年時            |                | 6年時            |
|               |                | A              | B              |                | A              | B              |                |
| H23 入学<br>現5年 | 62.3<br>(1.00) |                |                | 74.0<br>(1.13) |                |                |                |
| H22 入学<br>現6年 | 80.2<br>(1.19) | 78.0<br>(1.11) | 73.5<br>(1.14) | 64.1<br>(1.07) | 80.3<br>(1.08) | 40.8<br>(0.93) | 68.9<br>(1.13) |
| H27 正答率の全国比   |                | (1.11)         | (1.12)         |                | (1.07)         | (0.91)         | (1.13)         |

◎5年時は佐賀県学習状況調査、6年時は全国学習状況調査の推移。

◎上段は平均正答率、下段( )は、県平均を1としての比較。

◎「H27正答率の全国比」は全国平均を1としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

1 学習状況調査の結果から

学習状況調査の結果では、算数科B問題を除いて、県や全国よりも高い数値となっており、おおむね良好な結果である。国語科においてはA問題（主として知識）とB問題（主として活用）の正答率の差が小さくどちらも県・国平均を上回っており、学習内容を理解する力と知識を活用する力がうまく結びついている。理科においても、県・全国平均に対して高い数値となっており、理解ができていると考えられる。

しかし算数科においては、A問題とB問題の正答率の差が大きく、A問題は県・国平均を超えている。反面、B問題では県や国の平均を下回っており、既習の知識を活用しながら問題を解決する力が十分ではないということが言える。特に算数科において正答率が低かった問題は、「平行四辺形の作図の方法に用いられている図形の約束や性質」、「比較量と割合から基準量を求める」、「見い出した考えを他の場面でも活用して発展的に考察する」などであった。活用力の向上は、今後の大きな課題である。

2 意識調査の結果から

基本的な生活習慣については、100%の児童が朝食を毎日食べている。また「決まった時間に寝る」も県に対してよくできているが、「決まった時間に起きる」では県よりもやや低かった。ゲームやテレビ視聴の時間は「4時間以上」は0%で、県と比べて少ない。

学習については、平日の家庭での学習時間は、県と大きくは変わらない。しかし、土日に塾に通っている児童の割合が低く、土日の学習時間は少なくなっている。読書については、平日の読書時間で「2時間以上」や「30分以上」の割合が県よりも高く、読書によく取り組んでいる。また、学校の図書室にもよく通っている。家庭学習では、復習的な課題に取り組むことが多く、予習的な課題について積極的に取り組む児童が県と比べてやや少ない。家庭学習の内容の工夫が必要である。

学習に対する興味関心については、国語、算数、理科とも「大切な学習であり、将来役に立つ」という意識はあるが、国語、算数で「好き」と答える児童の割合がやや少なく、意識面が課題である。

また、「失敗を恐れず、何事にも挑戦する」や「自分にはよいところがある。」について、やや県に対して低い数値であり、学校生活や家庭生活においても自己肯定感や有用感を増す方策が大切である。

## 2 改善に向けた具体的な取組

### (1)授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

- 1 「杵西型授業」を基本にしながら、主体的な問題解決学習に取り組ませる。それにより、学ぶ楽しさ、できる喜びを味わわせ、学習に対する意欲を高める。  
特に次の点について重点的に取り組む。  
① 「めあて」の提示 ②ノート指導・ワークシートの工夫（書く場の保障） ④話し合い活動 ⑤学習の「まとめ」  
ノート指導では、図、言葉、式、文章など多様な表現方法で自分の考えを表し、自分の考えをしっかりと持たせる。さらにグループや全体で考えを高め合う言語活動を充実させることで、表現力、判断力、思考力を育成する。また、学習のめあてを確実に提示し、授業の最後に「まとめ」活動を取り入れ、学習したことの定着を図る。
- 2 学習の展開や、発問・板書等の工夫をし、授業に臨む。  
【国語科】・・・単元のねらいを明確にした指導。単元に設定されている言語活動を確実に実施する。  
学習用語の習得と活用を図り、国語科における基礎・基本の力を身につけさせる。  
【算数科】・・・「わかる」と「できる」をしっかりとつなげていく。答えを出すまでの過程を大切にす。  
既習事項を活用した自力解決力を大切にし、活用力を高める。  
【理科】・・・自然体験や、実験・観察などの直接体験を重視した授業を行う。また、言語活動との連携を図り、学習したことを新聞等にまとめる表現活動を取り入れる。
- 3 ICT 機器の効果的な利活用を通して、分かりやすい授業作りに努める。  
・デジタル教科書、タブレット PC の利用率を高める。
- 4 学んだ事を活用する場を作り出し、活用力を高める。  
・総合的な学習の中で、国語科や算数科で培った技能を意図的計画的に活用させる。(グラフや図表の活用、手紙、新聞、チラシ等目的に応じた文書表現を取り入れさせる。)  
・パワーアップタイム・・・余剰の時間を利用し、活用力の向上に向けた練習の時間を設定する。  
(4・5・6年生)

### (2) (授業以外) 児童・生徒の課題改善のための重点取組

- 1 「学習の手引き(現在、改訂版作成中)」を配布し、家庭学習の習慣化や内容の充実を家庭と連携して取り組む。  
①課題(読み、書き、計算)について職員間で共通理解を図る。  
②日記など多様な書く活動の場を設定し、充実を図る。  
③自主学習の奨励(週1回以上の取組)をする。  
④タブレット(スマイル学習)を利活用する。
- 2 学習のルールについて職員が共通理解し、学習への心構えや物構えについて全校で一貫した学業指導を行う。(チャイムの合図。筆箱の中味、姿勢、話型、聴型)
- 3 早寝、早起き、朝ご飯などの生活習慣を定期的にチェックし、それを整えさせる。